



ニュースレター

第57号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザワビル2F
株式会社ワールドプランニング内
NPO法人日本リハビリテーション看護学会
事務センター
電話番号 03(5206)7431 FAX 03(5206)7757
E-mail jrna@worldpl.jp



日本リハビリテーション看護学会(JRNA)の活動と リハビリテーション関連団体との連携

理事長 粟生田 友子

三年にわたる感染症の大きな波はようやく沈静の兆しを見せ、医療現場では、少しずつ平穏で、活気ある以前のような落ち着きを取り戻しつつあります。けれども、この間に取られた感染症対策のしわ寄せは当面は残されることが予測され、「以前のように」とはいかないさまざまな出来事への対応が求められてくると考えられます。その大きな課題の1つが、「IT化が進んだニューノーマルな社会への対応」ということになるでしょう。そのために、学会としても、新たな対応策を取りつつ感染症対策後の立て直しが継続していると見え、この節目となる移行期間を慎重に今後につないでいきたいと考えています。

現在、回復期・慢性期の医療現場や在宅療養の場では、利用する人々の状況が変化してきており、さまざまな医療処置が必要なまま、医療依存度の高い人々を多く受け入れざるを得ないことが、話題となっています。国の施策としては、急性期医療のテコ入れを終えた後は、次は回復期や慢性期の医療の課題に対して方向性を示し、何とか終末期までの流れを円滑にして、治療も療養も担え急性期後の患者を受け入れる質の高いケアの場が必要であることを視野に入れて動いています。看護・介護の現場、とりわけ在宅療養を担う療養型病床、訪問看護ステーション、ショートステイなど、地域包括ケアシステムのもと、ケア体系がさらに見直されていくものと考えられます。私たち看護・介護職は今後さらに対象のニーズに答えていけるような実践力をつけ、ケアの質を担保していけるよう、さらなる努力を重ねていくことが求められてくると言えるでしょう。

昨年度のJRNAの活動でも、リハビリテーション関連団体としての連携の必要性が高まり、学会の外部組織へ人材を送り出す機会が増えてきました。例えば、報酬対策委員会では、令和4年度の報酬改定に向けて、摂食嚥下支援チームの看護師に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の要件追加を要望しました。こちらは回復期リハビリテーション病棟協会・日本言語聴

覚士協会との合同要望として作成し、認められました。そして新たに看護系学会等社会保険連合（看保連）に加盟し、令和6年度の報酬対策への要望案を他の看護系の団体と共同要望する活動が動き出しました。また分野を広げ、がんリハビリテーションの活動にも参与し、人材育成に力を注いでいます。これらの活動は、ケアの受け手である人々へのニーズにどう応えるかという課題を中心においていることにほかなりません。そして、こうした流れの中で、学会は何を担うべきかについて、探究し、活動していることとなります。

さて、JRNAの近年の学会活動においても、いくつかの立て直しを図り、変化を起こしています。本学会のホームページをご覧くださいと、学会としてのこれまでの活動の歴史とともに、これからの活動の方向性を示す情報をできるだけ丹念に入れるよう、広報・会員拡大委員会が動いています。その情報の中で会員の個別の登録制も進めていますが、これは、本学会の会員の大半が、病院などの組織に所属する個人会員であった時代から見ると大きな変化だと思います。会員一人ひとりが個々に、直接、研修機会が得られ、自由に視聴したり参加したりできるよう、主体的な学習機会を増やしていけることを支援したいと思います。研修委員会では、2021年に公開したリハビリテーション看護領域のクリニカルラダーに沿って、それぞれのキャリアにあった学習機会を推奨していきたいと考え、企画を進めています。学会誌編集委員会では、昨年、会員の皆様が投稿しやすいように論種の区分を変更したり、査読システムの見直しを図り、活発に動いています。臨床での探究心を育て、発表されたものが投稿へと進めるような支援体制を、研修委員会・学術大会と連携して進めています。本学会のミッションが伝わることを祈念します。

このような本学会のコロナ後の立て直しを見守っていただき、活発に企画に参加していただけることを期待しています。



第34回 学術大会を終えて

白山リハビリテーション病院 板倉 喜子



おかげさまで、2022年11月21日から一ヶ月間のオンデマンド配信で開催することができました。ご参加いただいた皆さまと「アウトカムに貢献するリハビリテーション看護」について考える機会をご一緒できましたこと、そして開催をご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

基調講演では、東京大学教授の山本則子先生から「看護の可視化；リハビリテーション看護のアウトカムを考える」をテーマにご講演いただきました。看護は対人のケア実践であること、ひとつのケア行為には多様な目的に対して必ずしも意識化されないなかでも実践されている。そして看護の内実を可視化するためには事例研究が必須であるが、その限界もあること。さらには看護の可視化の未来像や研究の大規模化に至るまで、具体的な事例や指標を交えてご教授いただきました。

特別講演では社会保障の仕組みから診療報酬とリハビリテーション看護に関することを丁寧にわかりやすく、教育講演では各領域でご活躍の先生方から、排便ケア・口腔ケア・睡眠ケアの実践が見えるお話をいただき、生きる力と尊厳のあるケアについて学び胸が熱くも痛くもなりました。そしてパネルディスカッション、学会企画、交流集会、共催セミナーに加え、35演題の一般演題の多彩なご発表をいただきました。

何度か繰り返して視聴したりメモを取ったりしているうちに、あっという間にひと月が過ぎました。ご参加された皆さまにも“参加してよかった”と、楽しんでいただけたなら嬉しく存じます。大切にしたい看護を育ていけるよう、今大会での学びを活かしていただけたらと願います。参加者数は個人382名、18施設、総視聴数は5413件でした。

なお第35回学術大会は、九州看護福祉大学の山本恵子教授を大会長としてオンデマンド開催されます。リハビリテーション看護のさらなる探求の機会として、多くの皆さまにご参加いただけますようお願いいたします。

基調講演・特別講演・教育講演の先生方



山本 則子 先生



小野田 舞 先生



榊原 千秋 先生



東野 督子 先生



野村 哲志 先生



2022年度 通常総会

NPO 法人日本リハビリテーション看護学会 2022 年度通常総会は、本年も書面による議決権を行使する方法にて開催し、2022 年 12 月 23 日に議決結果を確認した。正会員総数 1,744 人中、出席者数 1,642 人（議決権行使書：796 人、委任状：846 人）、未回答者 102 人であった。

第 1 号議案：2021 年度事業報告及び収支決算（賛成：1,642 人、反対：0 人）

第 2 号議案：2022 年度事業計画及び収支予算（賛成：1,642 人、反対：0 人）

第 3 号議案：役員を選任（賛成：1,642 人、反対：0 人）

第 1～3 号議案は、定款第 27 条第 2 項に定める、出席した正会員の 3 分の 1 以上の賛同の要件を満たしたことから、可決した。

2021 年度 活動計算書

特定非営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会
(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
【A】 経 常 取 益		
1 受取会費		11,727,000
正会員受取会費	11,727,000	
2 事業収益		2,911,901
調査・研究・学術大会開催事業収益	2,708,901	
研究会・講演会開催事業収益	203,000	
3 その他の収益		22,818
受取利息	18	
学会誌売上	0	
雑収入	22,800	
経 常 取 益 計		14,661,719
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		7,342,344
学術大会運営費	3,752,380	
学会誌編集・発行費	1,500,178	
ニューズレター発行費	291,500	
研修会費	286,377	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
・学会誌編集委員会	63,684	
・研修委員会	8,475	
・広報・会員拡大委員会	0	
・調査委員会	0	
・教育プロジェクト	0	
・将来構想委員会	0	
表彰費	30,250	
選挙管理・運営費	110,000	
学会ポータルサイト構築費	1,149,500	
看護系学会等社会保険連合会費	150,000	
雑費	0	
事業費 計		7,342,344
2 管理費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) その他事務局管理費		6,678,470
会議費	110,110	
旅費交通費	0	
印刷・通信費	638,987	
HP管理費	396,000	
業務委託費	5,509,900	
租税公課	0	
雑費	23,473	
管理費 計		6,678,470
経 常 費 用 計		14,020,814
当期経常増減額 【A】 - 【B】 …………… ①		640,905
【C】 経 常 外 取 益		
経 常 外 取 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用		
経 常 外 費 用 計		0
当期経常外増減額 【C】 - 【D】 …………… ②		0
税引前当期正味財産増減額①+② …………… ③		640,905
法人税、住民税及び事業税 …………… ④		0
前期繰越正味財産額 …………… ⑤		2,709,190
次期繰越正味財産額③-④+⑤		3,350,095

2022 年度 活動予算書

2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日

特定非営利活動法人 日本リハビリテーション看護学会
(単位：円)

科 目	金 額	小計・合計
【A】 経 常 取 益		
1 受取会費		11,600,000
正会員受取会費	11,600,000	
2 事業収益		8,790,000
調査・研究・学術大会開催事業収益	8,000,000	
研究会・講演会開催事業収益	790,000	
3 その他の収益		50,000
受取利息	10,000	
学会誌売上	30,000	
雑収入	10,000	
経 常 取 益 計		20,440,000
【B】 経 常 費 用		
1 事業費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) 調査・研究・学術大会開催運営費		9,130,000
学術大会運営費	5,650,000	
学会誌編集・発行費	1,700,000	
ニューズレター発行費	500,000	
研修会費	530,000	
教育・調査研究費	0	
委員会活動費		
・学会誌編集委員会	50,000	
・研修委員会	100,000	
・広報・会員拡大委員会	100,000	
・調査委員会	150,000	
・将来構想委員会	50,000	
表彰費	50,000	
選挙管理・運営費	0	
看護系学会等社会保険連合会費	150,000	
雑費	100,000	
事業費 計		9,130,000
2 管理費		
(1) 人件費		0
人件費	0	
(2) その他経費		8,100,000
会議費	100,000	
旅費交通費	800,000	
印刷・通信費	1,000,000	
HP管理費	400,000	
オンデマンド配信サイト管理費	300,000	
業務委託費	5,400,000	
租税公課	0	
雑費	100,000	
管理費 計		8,100,000
経 常 費 用 計		17,230,000
当期経常増減額 【A】 - 【B】 ……………①		3,210,000
【C】 経 常 外 取 益		
経 常 外 取 益 計		0
【D】 経 常 外 費 用		
経 常 外 費 用 計		0
当期経常外増減額 【C】 - 【D】 ……………②		0
税引前当期正味財産増減額①+② ……………③		3,210,000
法人税、住民税及び事業税 …………… ④		0
前期繰越正味財産額 …………… ⑤		3,350,095
次期繰越正味財産額③-④+⑤		6,560,095



会員活動報告

兵庫県立リハビリテーション西播磨病院
山本 洋史

難病看護師としてのリハビリテーション看護への取り組み

私は現在リハビリテーション病院で、神経難病の主にパーキンソン病患者様を中心に関わらせていただいています。進行性の疾患である神経難病に対してのリハビリテーションは、一見不要に感じられる方もいるかもしれませんが、しかし、神経難病患者様は、病気の進行自体だけではなく、進行によって転倒が多くなったため歩かなくなったり、自分の姿を近所の人に見られたくなくて引きこもったりすることで、「廃用症候群」を起こしている人がたくさんいるのです。そのため、パーキンソン病のガイドラインでもリハビリテーションにより運動機能や認知機能の改善があることが記載されています。

私は新入職員から神経難病患者様と関わるようになり、15年目になります。4年前に日本難病看護学会認定の難病看護師資格を取得しました。それからは特に忙しく、患者様その介護者問わずの院内外の研修を行うことが増え、また昨年度から外来の難病



※資格取得の記念に患者様が似顔絵を描いてくださいました。

患者様向けに試験的に神経難病相談を開始し、今まで得た知識や経験を人に伝えることが多くなりました。日々進行する疾患と向き合うのは大変なことで、患者様やその家族、介護者に関わる中で、様々な難題に直面していることに気づかされます。私は自分の知識や経験を伝える中で、ACP（アドバンスドケアプランニング）の考え方を意識しています。ただ、病気のことを伝えるのではなく、今後の自分を意識していただくことで、リハビリテーションの必要性を知っていただくようにしています。悩みを聞いて疑問を払拭することで、心身を整え、リハビリテーションに集中していただく、それが私のリハビリテーション看護の一番の仕事だと思っています。

難病看護師とは、所定の過程を終了し、難病看護の専門的知識を有して、難病患者への直接的ケアが実践でき、患者家族に対して安全な療養環境を提供することができ、保健医療福祉の支援ネットワークの核となって患者家族への医療サービス提供に包括性と連続性を持たせることができる看護師である。全国で約400名の難病看護師が各方面で活躍している。

食事自助具の紹介



「こんなスプーンもあるよ!!」

さまざまな食事自助具がありますが、これはちょっと画期的。手のひらに当たると、自然と握りたくなる「木の玉」がついています。抜群の安定感です。

握力が落ちた方や認知症でずっと握っているのが困難な方に利用されています。入れ歯に当たっても響きません。食事介助時にも軽くて疲れません。

北欧風のデザインでとにかく可愛い、おすすめです。



看保連への新規加盟（ご報告）

理事 荒木 暁子

2022年度、JRNA は一般社団法人看護系学会等社会保険連合（看保連）に加盟いたしました。看保連は、①学術的根拠に基づき報酬体系の適正化を促進し、②公益性の高い情報を発信し、よりよい看護の環境を目指し、加盟学会・団体との委員会活動や厚生労働省への要望書、情報交換会を通して、③内保連や外保連と垣根を超えた連携、を行っています。JRNA は、これまで診療報酬・介護報酬等に関しては、リハビリテーション関連団体を通して要望活動を行ってまいりましたが、2021年度の将来構想検討委員会で、今後看護系学会として他団体と連携・協働して看護の評価を得ていく必要があることから、看保連への加盟を決定しました。

看保連社員として荒木が、看護技術検討委員会に森河理事、診療報酬体系のあり方に関する検討委員会に板倉副理事長、介護報酬体系のあり方に関する検討委員会に高木理事が担当者として参加しています。

この度、日本老年看護学会、日本看護研究学会と合同で「せん妄予防の取組みの評価」要望書を厚生労働省へ提出し受理されました。すでに、委員会などに参加し、様々な情報交換を行い、また、本学会調査委員会でも今後の要望へ向けた調査を計画しております。

「第 35 回学術大会開催のご案内」

- 開催方法：オンデマンド配信
- 開催期間：2023年11月20日～12月20日
- テーマ：伝えよう・活用しよう
リハビリテーション看護のコツ
- 大会長：山本 恵子（九州看護福祉大学看護福祉学部）
- 演題登録期間：4月3日～~~5月31日~~6月30日 ※締切を“再延長”しました。
- 参加申込期間：4月3日～10月31日（前期登録）
- 大会HP：<https://www.jrna35.net>

会員のみなさまからの演題登録および参加申込をお待ちしております。



施設 紹介

千葉県千葉リハビリテーションセンター

飯田 直子

建て替えイメージ図



千葉県千葉リハビリテーションセンターは、千葉県の中央部の千葉市にあります。政令指定都市で千葉県の県庁所在地のあるところです。当センターの周辺は、自然が多く暮らしやすく、都内や空港などへのアクセスもよく利便性のある街といえます。

千葉県千葉リハビリテーションセンターは、千葉県内で唯一の総合リハビリテーション病院で『誰もが街で暮らすために』という理念のもと、乳幼児から高齢者までの障害を有する方とその家族を対象にリハビリテーションを提供しています。回復期リハビリテーション病棟（脳血管障害、頭部外傷、多発骨折など）50床、障害者病棟（脊髄損傷、神経疾患など）29床、一般病床（人工関節手術、リウマチ疾患など）31床、医療型障害児入所施設（以下愛育園）が132床で合わせて242床のベッドを有しており、疾患や、年齢などの特徴にあった病棟に入院します。手術室や外来、その他、総合療育センターでは在宅支援として、短期入所サービスや通園事業も行っています。

平成22年に初めて病院機能評価 Ver. 6 の認定を受け、平成26年と令和元年には 病院機能評価 3rdG : Ver1.0（リハビリテーション病院・慢性期病院（副））の認定を受けています。職員560名（うち看護師が約180名）、20種類以上の職種で働いています。各部署の研修に加えて、千葉リハの職員としての教育には、多職種で構成された人材育成部が研修企画運営を担っていることも特徴の一つです。

看護局の理念は『障害を持つ人々の権利を尊重し、安心できる療養環境を提供します。障害を持つ人々の主体性を尊重し、自己決定を支援します。一人一人のQOLの向上を目指して、心のこもった看護に努めます』です。高度実践看護師として専門看護師2名、認定看護師6名、特定行為研修終了者2名、認定看護管理者3名、その他、協会認定リハ看護師4名、重心認定看護師3名がスペシャリストとして活躍しています。看護学生等、延べ240名程の臨地実習の受け入れも行い、自分たちのリハ看護を伝えることを通して共に成長できることを目指しています。看護師の教育体制では、キャリア開発支援モデルを示し、クリニカルラダーを用いてのステップアップ研修、ジェネラリスト研修、スペシャリスト研修の3つの柱で目指す看護師像に近づけるような支援を実践しています。

設置から約40年が経ち、建て替えが決定し、近々着工予定で完成が待ち望まれているところです。利用者の重度化や高齢化による変化にも柔軟に対応し、院内外でつながりを大事にしながら、地域への貢献ができるように取り組んでまいります。

編集後記

職場（病院）や通勤電車・バス以外ではマスクを外すことが増えました。

外で鏡やガラスに映った自分の顔をふとみると、何とも残念な感じ。3年間で年数以上に老けこんだ（下がった）気がします。顔の下半分油断していましたね。みなさん意識的に口角を上げていきましょう！！

広報・会員拡大委員長

兵庫県立リハビリテーション西播磨病院 柏木 史江

事務局からのご案内

—— メールアドレス登録のお願い ——

日本リハビリテーション看護学会では、メールマガジンの配信を始めました。

メールアドレスのご登録がお済みでない方は、会員登録票に必要事項をご記入のうえ、Faxまたはメールにて事務局へご提出ください。